

# 児童発達支援自己評価表

## 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2020年4月30日

事業所名        ぼぼハウス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切であるか	○			人員配置基準を上回る配置を行っているが個別支援を充実していくために増員をはかっている
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		時間を決めて施設内の消毒をし、遊具やおもちゃについては随時消毒を行っている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		検討し進めている
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部研修の実施や、外部研修への参加を促している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			より適切なアセスメント・ニーズの客観的な分析をし児童発達支援計画を作成していく
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		アセスメントツールはあるが、標準化されたツールを検討している
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		支援会議を持ち職員も参画している	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○	多くの情報を収集し取り入れることで固定化しないように努力している	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○	支援開始前のミーティングはしているが、職員間の連絡ノートで確認するようにもしている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	終了後職員は管理者に報告し次回ミーティングや定例会議で共有検証している	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		○		より正しくわかりやすい記録の取り方を検討し支援の検証、改善につなげるよう職員に徹底していく
関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			個々の育ちや変化に伴い必要な時には機関にかかわらず見直していく
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			相談支援事業所を通じて、会議や情報共有を行い連携した支援を行っている
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				対象となる受け入れケースがない
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				対象となる受け入れケースがない
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			相談支援事業所を通じて、会議や情報共有を行い連携した支援を行っている
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○			
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
保護者への説明	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		講演会の開催や相談に対する助言などできるだけ取り組んでいく
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			

責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			今後も講演会の開催、施設の開放などの機会を設けていくことで保護者同士の連携を支援していく
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報の取り扱いには十分注意し施錠保管している	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		法人としては行っている
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○			
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギー調査を行い、職員に周知し個別に対応している	食物アレルギーについて職員で研修する機会を持ち誰もが正しい対応ができるようにしていく
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットで細かな事案に対しても共有検証している	ヒヤリハット事例集については今後検討していく
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		振り返りチェック表を使い支援の仕方を見直し職員で共通理解している	今後も定期的に研修を行い虐待防止に努めていく
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している			身体拘束はしていない	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2020年4月30日

事業所名 ぽぽハウス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○			人員配置基準を上回っているが個別支援を充実していくために増員を図っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		移動式スロープを使用	できるかぎり配慮している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に会議を開き職員が参画できるようにしている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート調査から保護者等の意向を把握し、職員で検討し業務改善につなげている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		検討している
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		出来るだけ参加できるように勤めている	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			より適切なアセスメント、ニーズの客観的な分析をし放課後等デイサービス計画を作成していく
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		アセスメントツールはあるが、標準化されたツールを検討している
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		会議において職員が参画できるようにしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		情報収集をし固定化しないように努めている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○		支援開始前のミーティングはしているが、できない日もあるので職員間の連絡ノートで確認している
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		終了後、職員は管理者に報告し、次回ミーティングや定例会議で共有検証している
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		○	記録の取り方の研修に参加し、よりよい記録の取り方を検討している	より正しくわかりやすい記録の取り方を検討し、支援の検証、改善につなげるよう職員に徹底していく
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			個々の育ちや変化に伴い必要な時には期間にかかわらず見直していく
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている		○	自立、創作、地域交流を取り入れた余暇支援を行っている	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			対象となる受け入れケースがない	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		必要に応じケース会議等で情報共有をしているが、主に計画相談事業所を介している
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			対象となる受け入れケースがない	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		交流のできる場にはできるだけ参加していく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		可能な限り参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡ノート、電話、送迎時などで伝えあっている	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		講演会の開催や相談に対する助言などできるだけ取り組んでいく
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			今後も講演会の開催、施設開放など機会を設けていくことで保護者同士の連携を支援していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		担当窓口を設け対応に当たっている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の取り扱いには十分注意し、施錠保管している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		常に職員間で話し合い、配慮できるようにしている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		法人としては行っている

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			職員、保護者に周知するよう繰り返し働きかけていく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		振り返りチェック表を使い支援の仕方を見直し職員で共通理解している	今後も定期的に研修をおこない、虐待防止に努めていく
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			身体拘束はしていない	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			食物アレルギーについて職員で研修する機会を持ち誰もが正しい対応ができるようにしていく
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットで細かな事案に対しても共有検証している	ヒヤリハット事例集に関しては今後検討していく